

海外の畜産物の需給動向

牛 肉

米 国

メキシコの生体牛輸入停止などで、25年の牛肉生産量は下方修正

24年11月の牛肉生産量は前年同月比2.7%減

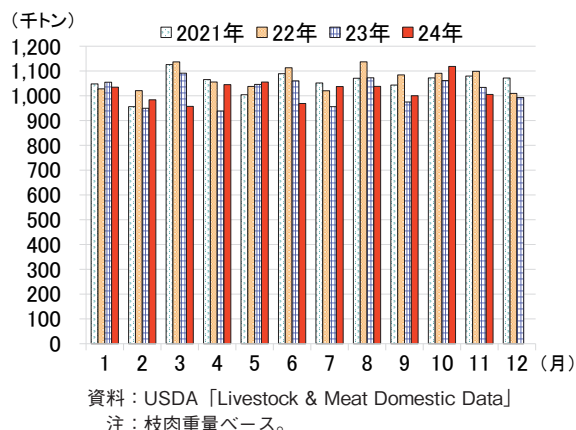
米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年11月の牛と畜頭数は、256万8000頭（前年同月比5.8%減）とやや減少した。一方、同月の1頭当たり枝肉重量は、393.7キログラム（同3.3%増）とやや増加した。この結果、同月の牛肉生産量は100万5000トン（同2.7%減）とわずかに減少した（図1）。なお、1～11月の累計では1124万3000トン（前年同期比0.0%増）となっている。

同月のフィードロット導入頭数は、179万6000頭（前年同月比3.7%減）とやや減少した。これは干ばつの影響により前月に

フィードロットへの早期導入が進んだことや、11月下旬にメキシコ南部の牛からラセンウジバエが検出され、同国からの生体牛輸入を停止した影響^{（注1）}によるものとみられる。また、同月の出荷頭数は172万5000頭（同1.5%減）とわずかに減少した。この結果、24年12月1日時点のフィードロット飼養頭数は1198万2000頭（同0.3%減）と前年同月並みとなった。

こうした状況を踏まえ、25年の牛肉生産量についてUSDAは、今後年間を通じてメキシコからの生体牛輸入を再開しない場合には、肥育牛の出荷頭数の減少が見込まれるため、前月予測より27万9000トン下方修正の1164万1000トン（前年比5.1%減）と予測している。

図1 牛肉生産量の推移



（注1）海外情報「米国農務省、メキシコからの生体牛輸入再開に関する手続書に署名（米国）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003999.html）をご参照ください。

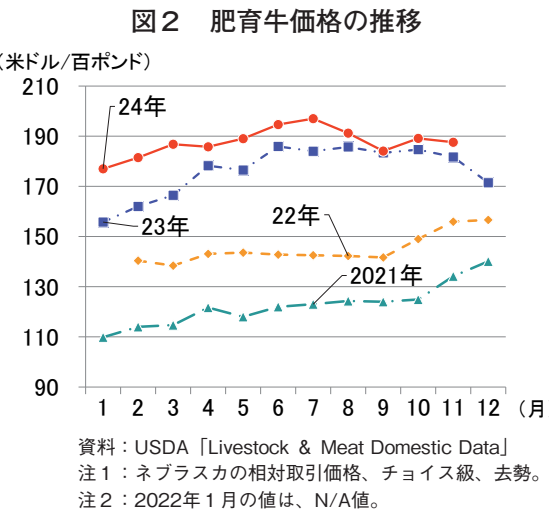
24年11月の肥育牛価格は前年同月比3.2%高

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年11月の肥育牛価格は、100ポンド当たり187.6米ドル（1キログラム当たり658円：1米ドル＝159.18円^{（注2）}、前年同月比3.2%高）とやや上回った（図2）。

前述の生体牛の輸入停止により肥育もと牛の供給が制限されたことで、同価格は25年にかけてさらなる上昇が見込まれている。

同月の牛肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注3）}）は、肥育牛価格の高止まりが続く中で、同311.43米ドル（同1093円、同4.1%高）となった。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。
（注3）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構成した卸売指標価格。



24年10月の牛肉輸出量は前年同月比0.3%減

USDA/ERSによると、2024年10月の牛肉輸出量は10万9367トン（前年同月比0.3%減）となり、24年1～10月の累計では113万64トン（前年同期比2.6%減）とわずかに減少した（表1）。牛肉卸売価格の高止まりや米ドル高の影響などから、主要輸出先の多くで減少が続いている。同年1～10月の輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは24万6300トンと前年並みとなったが、韓国向けは23万1648トン（同8.8%減）、中国向けは17万8535トン（同8.0%減）といずれもかなりの程度減少した。

24年10月の牛肉輸入量は、18万7806トン（前年同月比35.2%増）と大幅に増加した（表2）。輸入先別ではカナダ以外、軒並み増加している。特に豪州は5万5919トン（同75.6%増）、ブラジルは2万5372トン（同2.9倍）とそれぞれ大幅に増加した。

表1 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

国名	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	21,397	20,136	▲5.9%	18.4%	246,300	▲0.0%
韓国	22,354	23,767	6.3%	21.7%	231,648	▲8.8%
中国	16,826	20,169	19.9%	18.4%	178,535	▲8.0%
メキシコ	12,791	12,942	1.2%	11.8%	128,663	9.8%
カナダ	9,894	7,552	▲23.7%	6.9%	95,963	▲7.2%
台湾	6,959	5,497	▲21.0%	5.0%	72,293	▲2.6%
香港	3,905	3,853	▲1.3%	3.5%	32,240	▲6.6%
その他	15,526	15,450	▲0.5%	14.1%	144,423	5.8%
合計	109,651	109,367	▲0.3%	100.0%	1,130,064	▲2.6%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注1：枝肉重量ベース。
注2：計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

表2 輸入先別牛肉輸入量の推移

(単位：トン)

国名	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)	輸入割合	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
豪州	31,838	55,919	75.6%	29.8%	394,658	69.4%
カナダ	43,561	39,531	▲9.2%	21.0%	378,998	1.3%
メキシコ	24,095	25,140	4.3%	13.4%	224,623	▲11.7%
ブラジル	8,753	25,372	189.9% (約2.9倍)	13.5%	271,779	52.0%
ニュージーランド	12,483	13,577	8.8%	7.2%	225,830	6.3%
ウルグアイ	7,624	12,967	70.1%	6.9%	110,113	65.4%
ニカラグア	5,432	6,172	13.6%	3.3%	60,476	4.6%
パラグアイ	—	2,476	—	1.3%	16,557	—
その他	5,154	6,651	29.0%	3.5%	54,949	31.3%
合計	138,938	187,806	35.2%	100.0%	1,737,982	22.5%

資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため合計において一致しない場合がある。

(調査情報部 伊藤 瑞基)

豪州

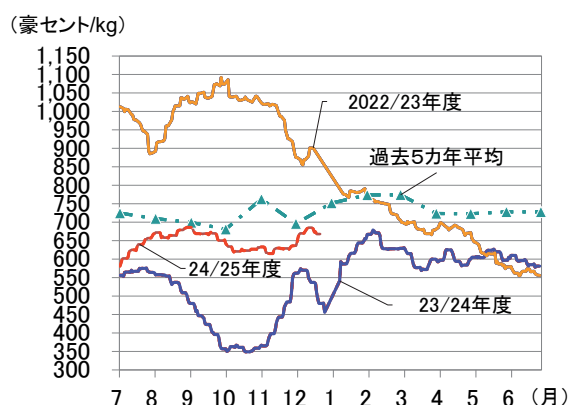
24年の牛肉輸出量は過去最高の見通し、さらなる海外需要創出を模索

24年12月の肉牛価格、牧草肥育農家の需要増により上昇傾向

豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、豪州の肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、直近12月22日時点で1キログラム当たり668豪セント（671円：1豪ドル＝100.5円^{（注1）}）と12月に入り上昇傾向で推移している（図1）。上昇の要因として、肉用牛主産地であるクイーンズランド（QLD）州、ニューサウスウェールズ（NSW）州で広範囲にわたって降雨があり、牧草の生育予測が上向いたことで、短期的に牧草肥育農家の需要が高まったためとされている。民間会社Cibolabsが提供している、牧草の生育状況の指標となる衛星画像データを見ると、QLD州とNSW州

の多くの地域で草地の裸地率が20%未満となっており、降雨によって牧草の成長が進んでいることが確認できる（図2）。一方で、

図1 EYCI価格の推移



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：年度は7月～翌6月。

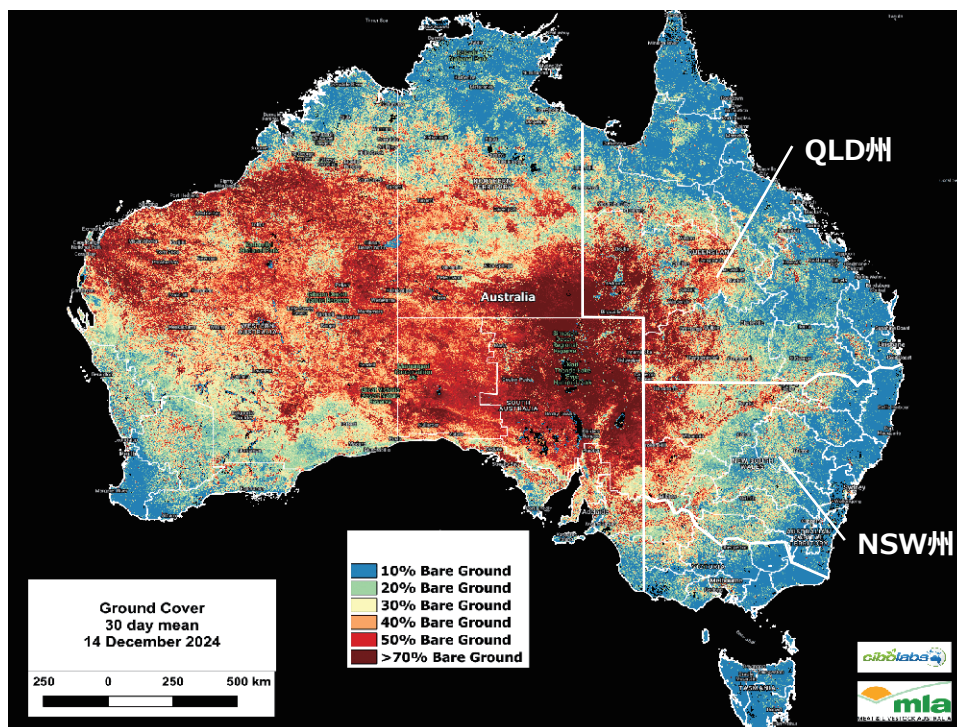
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

豪州農業系金融機関ルーラルバンクは、2025初頭には乾燥した気候条件に戻ること
で、生産者の大半が牛群の整理を進め、供給
が需要を上回ることにより市場価格は下落

すると予測している。

(注1) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

図2 豪州における草地の平均裸地率 (2024年12月14日時点)



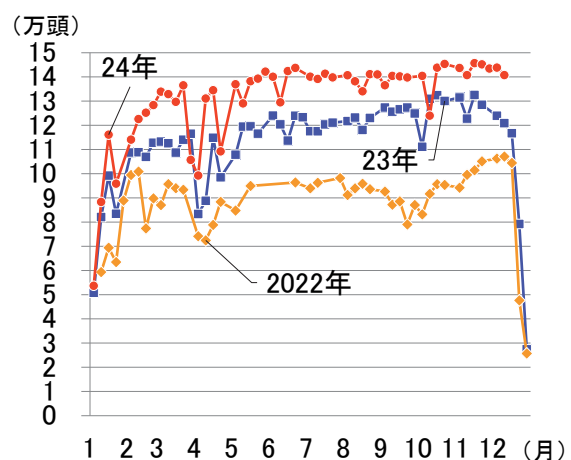
資料：Cibolabs社ウェブサイトから引用

注：裸地率が低い（赤→青）ほど露出した地面が少なく、豊かな草地土壌を形成している。

24年12月の成牛と畜頭数、引き続き高水準で推移

2024年12月の週当たりの成牛と畜頭数は、おおむね横ばいで推移している（図3）。同月第2週は14万733頭と前週に比べて若干下落したものの、引き続き高水準を維持している。MLAによると、24年（1～12月）の平均と畜頭数は過去5年平均を16%上回っているとされる。その要因としてMLAは、輸出市場からの好調な牛肉需要に加え、太平洋豪州労働力移動計画（PALM：Pacific Australia Labour Mobility）（注2）

図3 成牛と畜頭数の推移（週間報告）



資料：MLA「National Livestock Reporting Service」

注1：成牛のみ（仔牛は含まない）。

注2：年末および3～4月ごろの減少は、祝日などの休暇に伴うと畜場休業によるもの。

の推進やその他の労働力確保の取り組みにより、国内の食肉加工能力が大幅に拡大したことを挙げている。

(注2) 海外情報「豪州農業団体、農家が抱える課題に関する調査結果を発表(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003626.html) をご参照ください。

24年11月の牛肉輸出量、若干鈍化するも年間記録を更新

豪州農林水産省(DAFF)によると、2024年11月の牛肉輸出量は、前月比では若干減少したものの、引き続き米国向けがけん引し、11万8878トン(前年同月比26.7%増)と大幅に増加した(表)。

また、24年の累計(1～11月)でも、121万6176トン(前年同期比24.6%増)と引き続き過去最高の水準で推移している。

輸出先別に見ると、米国向けが最も多く、3万5026トン(前年同月比79.3%増)を記録した。現地報道によると、トランプ次期大統領の当選以降、豪ドルの対米ドル相場は

下落しており、輸出業者にとって好条件が整っているとされている。実際に12月の取引では、米国向け牛肉の主要な形態である加工用牛肉(90CL:赤身率90%のひき肉用)は、現地通貨建てで史上最高値となる1キログラム当たり10豪ドル(1005円)を記録しており、米国市場での豪州産需要の高まりを示している。

また、東南アジア向けは、2024年は、主要な成長市場となっており、1万5890トン(同43.6%増)と大幅に増加した。その中でもインドネシア向けは大きく伸びて9926トン(同49.6%増)を記録し、第5位の輸出先となっている。同国向けは、従来は生体牛輸出による供給体系が主であったが、現在は生体牛輸出とともに牛肉の輸出量も増えており、今後のさらなる成長が見込まれている。

MLAは、今年の歴史的な輸出増について、米国内の牛肉供給が不足していることが主要因としつつ、これまで実施してきたグローバルなマーケティング活動、ターゲットを

表 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位: トン)

国名	2023年 11月	24年 11月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～11月)	前年同期比 (増減率)
米国	19,539	35,026	79.3%	352,558	67.7%
韓国	18,117	19,001	4.9%	182,049	4.9%
東南アジア	11,063	15,890	43.6%	140,094	29.6%
インドネシア	6,634	9,926	49.6%	78,420	21.8%
中国	16,206	16,337	0.8%	169,368	▲9.8%
日本	17,857	17,515	▲1.9%	229,522	22.2%
中東	3,209	3,016	▲6.0%	33,768	26.1%
E U	594	1,222	105.8%	12,249	55.4%
その他	7,217	10,871	50.6%	96,569	31.3%
輸出量合計	93,802	118,878	26.7%	1,216,176	24.6%

資料: DAFF

注1: 船積重量ベース。

注2: 東南アジアは次の国の合計。フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシア。

注3: 中東は次の国の合計。イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦(七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラース・アル＝ハイマ))。

絞った消費者向けプロモーションによって、国際市場で豪州牛肉への信頼感が醸成されていることも要因の一つと分析している。2024年、MLAは香港に拠点を置き、グレーターベイエリア^(注3)における新たなビジネス構築のための体制を整えており、今後もアジア

地域でのマーケティング活動に力を入れていくとみられる。

(注3) 中国の南部に位置し、広州の九つの都市、香港、マカオを含む経済圏。

(調査情報部 国際調査グループ)

ブラジル

24年の牛肉生産量、輸出量ともに前年を大幅に上回り推移

24年1～9月の牛と畜頭数および牛肉生産量はいずれも前年同期比2割増

ブラジル地理統計院（IBGE）による四半期ごとの公表資料によると、2024年1～9月の牛と畜頭数は2969万9000頭（前年同期比19.1%増）、牛肉生産量は773万7000トン（同18.5%増）といずれも前年同期を大幅に上回った（図1）。これは、19年末から21年にかけて雌牛を多く保留したことから子牛頭数が増え、また、子牛価格が低水準にあることから、肉用牛生産者による雌牛出荷傾向が強まったことなどが要因とみられる。さらに、国内外の牛肉需要が堅調である

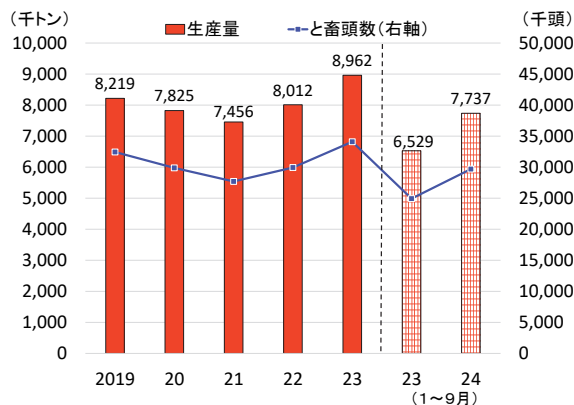
ことも、と畜頭数増加の追い風となった。特に同年7月のと畜頭数は359万2000頭（前年同月比22.6%増）と、1997年に統計を開始してから単月で最大となった。

24年1～11月の牛肉輸出量はレアル安の影響などにより前年同期比30.4%増

ブラジル開発商工サービス省貿易局（SECEX）によると、2024年1～11月の牛肉輸出量は、234万3530トン（前年同期比30.4%増）と大幅に増加した（表）。これは、生産コストの低下や米ドルに対してレアル安で推移する為替相場の影響により同国産牛肉の国際競争力が高まったことなどが要因とみられる。特に24年10月は27万332トンと、単月としては過去最大の牛肉輸出量となった（図2）。一方、同年1～11月の牛肉輸出単価は1トン当たり4546米ドル（72万3632円、1米ドル＝159.18円^(注)、同4.4%安）とやや低下した。

輸出先別に見ると、最大の中国向けは120万8722トン（同12.0%増）とかなり大きく増加した。前年の23年2月にブラジル北部パラ州で非定型BSEに感染した牛が確認され、同国向け輸出が1カ月間（2月23日

図1 牛肉生産量および牛と畜頭数



資料：IBGE

注1：牛肉生産量は枝肉重量ベース。

注2：2024年は速報値。

～3月22日）停止し、同年の輸出量に影響したことが、24年の輸出量の増加につながっている。ただし、輸出量全体に占める中国向けの割合は51.6％であり、前年同期（60.1％）から8.5ポイント低下した。これに次ぐ米国向けは、5月以降、前年同月を

大幅に上回る水準で輸出され16万9586トン（同2.1倍）、また、アラブ首長国連邦（UAE）向けは12万5836トン（同2.0倍）といずれも倍増した。このほか、フィリピン、ロシア、サウジアラビア向けが大幅に増加している。

表 牛肉輸出の推移

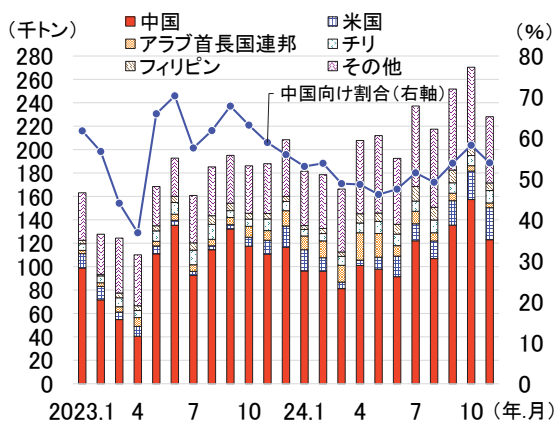
区分	2023年1～11月			24年1～11月			前年同期比（増減率）		
	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量 （トン）	輸出額 （千米ドル）	単価 （米ドル/トン）	輸出量	輸出額	単価
中国	1,079,471	5,211,830	4,828	1,208,722	5,417,994	4,482	12.0%	4.0%	▲7.2%
米国	79,555	368,473	4,632	169,586	840,589	4,957	113.2% (2.1倍)	128.1% (2.3倍)	7.0%
アラブ首長国連邦	61,957	275,911	4,453	125,836	580,352	4,612	103.1% (2.0倍)	110.3% (2.1倍)	3.6%
チリ	91,334	444,547	4,867	95,899	457,395	4,770	5.0%	2.9%	▲2.0%
フィリピン	51,621	193,747	3,753	86,764	312,886	3,606	68.1%	61.5%	▲3.9%
エジプト	54,635	216,243	3,958	64,316	262,229	4,077	17.7%	21.3%	3.0%
ロシア	47,323	176,344	3,726	62,073	239,646	3,861	31.2%	35.9%	3.6%
サウジアラビア	41,824	189,190	4,523	50,734	232,820	4,589	21.3%	23.1%	1.4%
その他	289,719	1,471,195	5,078	479,600	2,310,696	4,818	65.5%	57.1%	▲5.1%
合計	1,797,439	8,547,481	4,755	2,343,530	10,654,607	4,546	30.4%	24.7%	▲4.4%

資料：SECEX

注1：HSコード0201（冷蔵牛肉）、0202（冷凍牛肉）の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

図2 牛肉輸出量および中国向け輸出割合（右軸）



24年肥育牛価格は堅調な海外需要により、8月下旬以降急上昇

サンパウロ大学農学部応用経済研究所（CEPEA）によると、2024年12月23日時点

の肥育牛価格は1キログラム当たり20.97レアル（539円：1レアル=25.71円（注）、前年同期比24.9%高）となった（図3）。24年の肥育牛価格は、当初牛肉供給量が高水準で

図3 肥育牛価格の推移



推移したことなどから23年に続き下落傾向で推移したが、同年6月7日の同14.35リアル（369円）を底に上昇傾向に転じ、8月下旬以降急上昇した。これは、海外からの需要が引き続き堅調であることや、生産量の3分の2が仕向けられる国内市場についても、消費者の可処分所得の増加などに伴いある程度の需要を確保できる状況にあるためとみられる。

なお、肥育牛価格は、急激な価格上昇の反動で12月に入り1割程度急落したが、依然

高水準にある。ブラジルでは、25年からと畜対象頭数の減少局面に転換するとされており、当面、肥育牛価格は高値で推移するとみられている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場および現地参考為替相場（Selling）。

（調査情報部 井田 俊二）

豚 肉

米 国

24年11月の豚肉卸売価格、牛肉の代替需要などから前年同月比11.6%高

24年12月の豚総飼養頭数、前年同月比0.5%増

米国農務省全国農業統計局（USDA/NASS）によると、2024年12月1日時点の豚総飼養頭数は、7584万5000頭（前年同月比0.5%増）とわずかに増加した（表1）。

内訳を見ると、繁殖豚は600万4000頭（同0.1%増）と前年並みになり、肥育豚は6984万1000頭（同0.5%増）とわずかに増加した。また、同年9～11月期の1腹当たり産子数については、11.92頭（同2.2%増）とわずかに増加した。

表1 豚飼養頭数の推移

（単位：千頭）

区分	2022年	23年	24年	前年比 (増減率)
総飼養頭数（12月1日時点）	74,956	75,461	75,845	0.5%
繁殖豚	6,204	5,999	6,004	0.1%
肥育豚	68,752	69,463	69,841	0.5%
50ポンド（23キログラム）未満	21,788	21,571	21,834	1.2%
50～119ポンド （23～53キログラム）	19,134	19,154	19,426	1.4%
120～179ポンド （54～81キログラム）	14,801	14,908	14,824	▲0.6%
180ポンド（82キログラム）以上	13,029	13,829	13,757	▲0.5%
分娩母豚頭数（9～11月）	3,092	2,962	2,955	▲0.2%
産子数（9～11月）	34,701	34,537	35,238	2.0%
1腹当たり産子数（9～11月）（頭）	11.22	11.66	11.92	2.2%

資料：USDA「Hogs and Pigs」

注1：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

注2：産子数には事故などで死亡した子豚を含まない。

24年11月の肥育豚価格は前年同月比13.4%高

USDA/NASSによると、2024年11月の豚肉生産量は、出荷体重に達した肥育豚の頭数減などからと畜頭数が前年同月を下回ったことにより、105万8900トン（前年同月比2.2%減）とわずかに減少した（図1）。

かかる状況から、同月の肥育豚価格は100ポンド当たり63.71米ドル（1キログラム当たり224円：1米ドル＝159.18円^{（注1）}、同13.4%高）とかなり大きく上昇し、前月比では3.6%高となった。

また、同月の豚肉卸売価格（カットアウトバリュー^{（注2）}）は、牛肉の代替需要などから同96.72米ドル（同339円、同11.6%高）とかなり大きく上昇したものの、10月の生産増により需給が緩和したことから前月比では0.3%安となった（図2）。

（注1）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

（注2）各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図1 豚肉生産量の推移

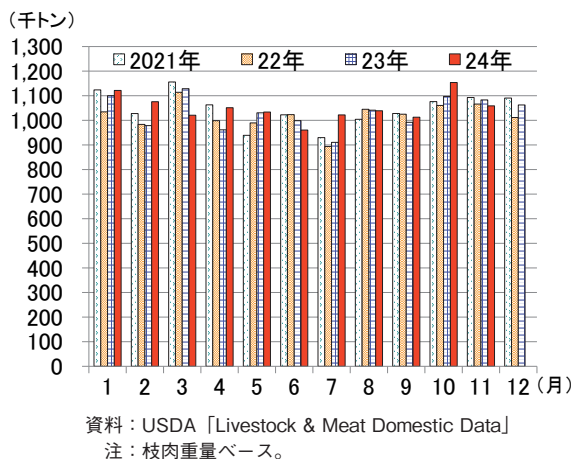
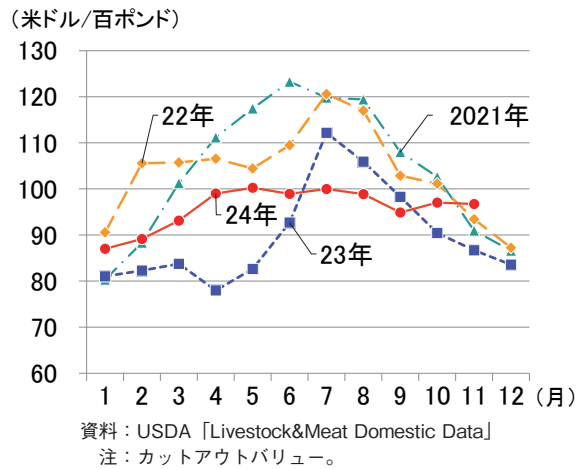


図2 豚肉卸売価格の推移



24年10月の豚肉輸出量、前年同月比1.7%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）によると、2024年10月の豚肉輸出量は26万4400トン（前年同月比1.7%増）とわずかに増加した（表2）。最大の輸出先となるメキシコ向けは、米国内での豚肉卸売価格の上昇や米ドルに対するメキシコペソ安の影響により、10万2000トン（同4.4%減）とやや減少した。日本向けは冷凍豚肉を中心に3万6300トン（同4.9%増）とやや増加した。

24年の輸出量についてUSDAは、米国内での豚肉卸売価格の上昇が続くことから、前月予測より1万6000トン下方修正の322万9000トン（前年比4.3%増）と見込んでいる。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

国名	2023年 10月	24年 10月	24年		24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
			前年同月比 (増減率)	シェア		
メキシコ	106.8	102.0	▲4.4%	38.6%	990.0	4.7%
日本	34.6	36.3	4.9%	13.7%	404.8	▲1.7%
中国	15.1	23.7	57.3%	9.0%	165.9	▲18.6%
カナダ	20.8	17.9	▲14.1%	6.8%	195.3	▲6.0%
韓国	19.3	15.8	▲18.5%	6.0%	254.1	20.8%
コロンビア	14.4	13.9	▲3.2%	5.3%	133.1	36.1%
ドミニカ共和国	10.9	12.8	17.0%	4.8%	102.7	▲1.0%
豪州	6.8	9.8	43.3%	3.7%	100.1	36.1%
その他	31.2	32.3	3.5%	12.2%	296.5	8.4%
合計	259.8	264.4	1.7%	100.0%	2,642.6	4.5%

資料：USDA [Livestock and Meat International Trade Data]

注1：枝肉重量ベース。

注2：計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

(調査情報部 小林 大祐)

メキシコ

24年の豚肉生産量は前年比2.1%増、25年は同1.6%増の予測

24年の豚肉生産量は前年比2.1%増の見込み

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年9月5日、24年と25年のメキシコの豚肉需給見通しを発表した。これによると、24年の豚と畜頭数は2115万頭（前年比1.9%増）となり、豚肉生産量は159万トン（同2.1%増）とわずかな増加が見込まれている（表1）。また、同年の豚肉消費量は

274万トン（同3.3%増）とやや増加が見込まれている。

25年の豚肉生産量については、前年を2万5000トン程度上回る161万5000トン（同1.6%増）と予測している。堅調な国内需要に加え、飼料価格の低下による生産者の収益性の改善、業界のインテグレーション（垂直統合）の進展などが豚肉生産を後押しすると見込んでいる。

表1 メキシコの豚肉需給の推移

(単位：千頭、千トン)

区分	2021年	22年	23年	24年	25年	前年比 (増減率)
と畜頭数	19,700	20,400	20,750	21,150	21,450	1.4%
供給量	2,639	2,822	2,911	3,000	3,025	0.8%
生産量	1,484	1,523	1,557	1,590	1,615	1.6%
輸入量	1,155	1,299	1,354	1,410	1,410	0.0%
輸出量	319	285	258	260	270	3.8%
消費量	2,320	2,537	2,653	2,740	2,755	0.5%

資料：USDA/FAS [Gain Report]

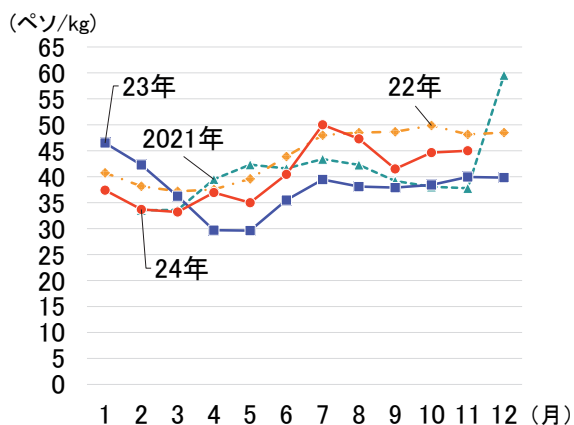
注1：24年、25年は予測値。

注2：枝肉重量ベース。

生体豚価格は堅調に推移、24年11月は前年同月比12.6%高

メキシコ国家情報市場統合システム(SNIIM)によると、2024年11月の生体豚価格は、1キログラム当たり45.0ペソ(395円：1ペソ＝8.77円^(注)、前年同月比12.6%高)とかなり大きく上回った(図)。24年前半の同価格は同33～37ペソ(289～324円)台で推移していたが、6月2日の大統領選後、ペソが下振れに転じたことで、輸入豚肉の高騰を見据えた業者による国産豚肉確保の動きが強まったことに起因していると思われる。8月以降はペソ相場の変動に合わせて上下した

図 生体豚価格の推移



資料：SNIIM

注：2021年1月は未発表。

ものの、10月以降の生体豚価格は落ち着きを見せた。また、豚枝肉価格も生体豚価格と同様の動きを見せ、11月は72.5ペソ(636円、同9.0%高)とかなりの程度上回った。

(注) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

24年1～9月の豚肉輸出量、前年同期比8.0%減

USDA/FASによると、2024年1～9月の豚肉輸出量は、国内需要の増加により、12万2800トン(前年同期比8.0%減)とかなりの程度減少した(表2)。輸出先別に見ると、輸出先第1位の日本向けは9万7200トン(同6.3%減)とかなりの程度減少した。第2位の米国向けは、米国内の豚肉生産の増加から1万8700トン(同5.1%減)とやや減少し、続く韓国向けは7000トン(同28.2%減)と大幅に減少した。なお、中国向けは同国内での生産回復に伴い、22年6月以降、輸出は行われていない。

25年の輸出量についてUSDAは、ペソ相場下落による価格競争力の回復などから、前年比3.8%増と予測している。

表2 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

国名	2023年	23年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	
				増減率	シェア
日本	134.4	103.7	97.2	▲6.3%	79.1%
米国	27.3	19.7	18.7	▲5.1%	15.2%
韓国	18.5	9.7	7.0	▲28.2%	5.7%
中国	0.0	0.0	0.0	—	0.0%
その他	0.1	0.4	0.0	▲99.8%	0.0%
合計	181.3	133.5	122.8	▲8.0%	100.0%

資料：「Global Trade Atlas」、メキシコ税関管理局、ITC (International Trade Center)

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 小林 大祐)

豚枝肉卸売価格、2カ月連続で200ユーロを下回る

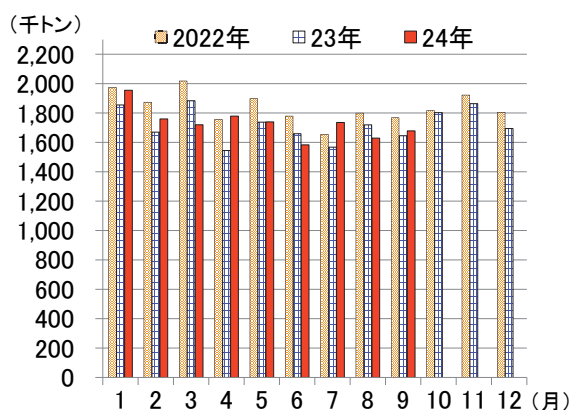
24年9月の豚肉生産量、前年同月比2.0%増

欧州委員会によると、2024年9月の豚肉生産量（EU27カ国）は、167万8210トン（前年同月比2.0%増）とわずかに増加した（図1）。これは、豚と畜頭数が1801万415万頭（同0.8%増）とわずかに増加したことに加えて、飼料価格の下落による生産者の収益性の改善などにより生体豚の出荷を遅らせる傾向が強まったことなどを背景に、1頭当たりの枝肉重量が93.16キログラム（同1.2%増）とわずかに増加したことが影響した。また、24年1～9月の豚肉生産量を見ると、1557万7960トン（前年同期比1.9%増）とわずかな増加を維持している。

24年9月の豚肉生産量を主要生産国別に見ると、スペインやドイツでは豚と畜頭数の増加を受けて豚肉生産量も増加した（表1）。一方、フランスやポーランド、デンマーク

では、と畜頭数が前年同月比減となったものの、1頭当たりの枝肉重量増加により豚肉生産量は増加した。米国農務省海外農業局（USDA/FAS）によると、EUの24年の豚肉生産量は、飼料価格の下落などを背景に1頭当たりの枝肉重量の増加が見込まれるため、前年比2.0%増の2125万トンと予測されている。

図1 豚肉生産量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

注2：枝肉重量ベース。

表1 主要生産国別豚肉生産量

(単位：千トン)

国名	2023年 9月	24年 9月	前年同月比 (増減率)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	367	384	4.7%	3,609	0.3%
ドイツ	353	359	1.6%	3,175	1.6%
フランス	169	171	1.0%	1,562	1.1%
ポーランド	145	150	3.4%	1,392	8.6%
オランダ	120	101	▲15.8%	1,049	▲3.8%
デンマーク	100	101	1.2%	984	2.3%
イタリア	92	101	9.9%	933	4.2%
その他	298	311	4.2%	2,874	3.2%
合計	1,645	1,678	2.0%	15,578	1.9%

資料：欧州委員会「Eurostat」

注：枝肉重量ベース。

24年11月の豚枝肉卸売価格、前年同月比9.2%安

欧州委員会によると、2024年11月の豚枝肉卸売価格（EU27カ国）は、前年同月比9.2%安の100キログラム当たり192.71ユーロ（3万2069円：1ユーロ＝166.42円^{（注）}）となり、2カ月連続で200ユーロを下回った（図2）。現地報道によると、と畜豚の増加や1頭当たりの枝肉重量の増加に

より域内での豚肉供給量が前年を上回ったことが、枝肉卸売価格の下落につながったとしている。週別の価格動向を見ると、11月から12月にかけてはほぼ横ばいで推移しており、直近12月9日の週は同192.39ユーロ（3万2018円）と前年同週比9.2%安となった。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

24年10月の豚肉輸出量、前年同月比3.2%増

欧州委員会によると、2024年10月のEU域外への豚肉輸出量（EU27カ国）は、17万8306トン（前年同月比3.2%増）とやや増加した（表2）。中国の豚肉輸入需要が低迷する中、同国向けの豚肉輸入量の4分の1を占めるブラジルの豚肉価格高騰などから、同じく主要な輸入先であるスペインからの輸入量が同21.8%増加したことや日本やフィリピン向けが増加したことなどが輸出量の増加に寄与した。24年1～10月の豚肉輸出量を見ると、167万89トン（前年同期比4.3%減）とやや減少した。

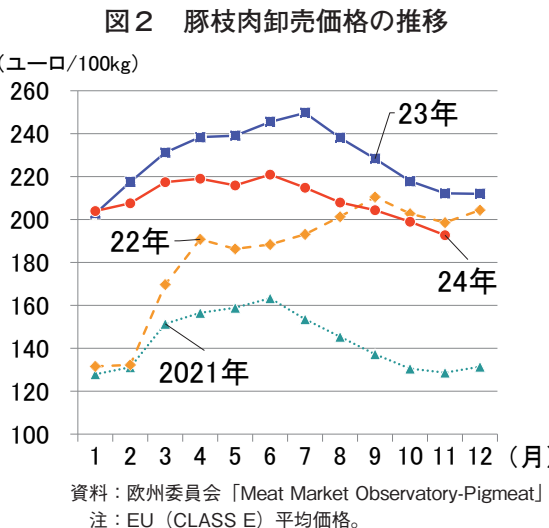


表2 輸出先別豚肉輸出量（EU域外向け）

（単位：トン）

国名	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)	輸出割合	24年 (1～10月)	
					前年同期比 (増減率)	
中国	44,654	43,583	▲2.4%	24.4%	404,603	▲16.5%
英国	30,086	30,069	▲0.1%	16.9%	282,585	▲1.8%
日本	20,234	24,033	18.8%	13.5%	248,671	3.0%
韓国	15,725	12,339	▲21.5%	6.9%	164,200	6.9%
フィリピン	11,070	13,420	21.2%	7.5%	109,372	15.8%
豪州	6,378	8,454	32.5%	4.7%	56,906	2.4%
その他	44,630	46,408	4.0%	26.0%	403,752	▲5.7%
合計	172,777	178,306	3.2%	100.0%	1,670,089	▲4.3%

資料：「Global Trade Atlas」
注1：製品重量ベース。
注2：HSコードは0203。

（調査情報部 藤岡 洋太）

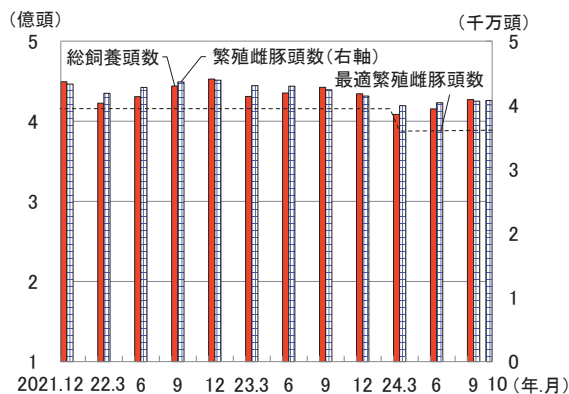
中国

豚肉供給量の増加から豚肉価格は下落傾向で推移

24年10月末の繁殖雌豚頭数は前月並み

中国農業農村部によると、2024年10月末時点の繁殖雌豚頭数は4073万頭（前月比0.3%増）となった（図1）。同頭数は、同部が最適な水準としている3900万頭を4.4%上回っている。

図1 豚飼養頭数の推移



資料：中国国家统计局

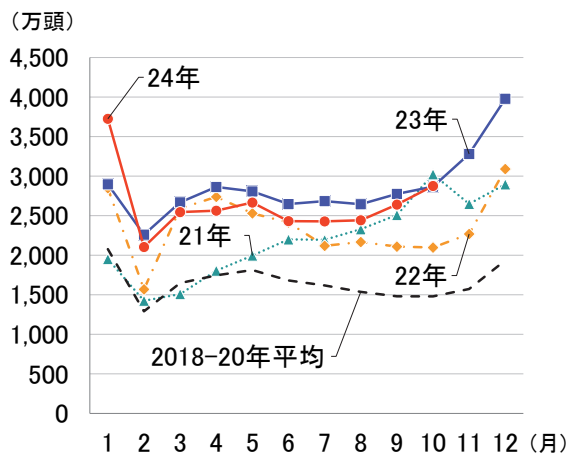
注1：2024年10月のデータを除き四半期ごとの公表値。

注2：2024年3月1日に中国農業農村部は「豚生産能力管理調整方策」を改訂し、最適繁殖雌豚頭数を4100万頭程度から3900万頭程度に引き下げた。

24年10月の豚と畜頭数は前年同月並み

2024年10月の豚と畜頭数は、2876万頭（前年同月比0.3%増）と前年同月並みとなり、前月比では8.9%増とかなりの程度増加した（図2）。同年3月以降、子豚の生産頭数が増加しているため、肥育豚飼養頭数が増加し、と畜頭数の増加につながったとみられる。

図2 豚と畜頭数の推移



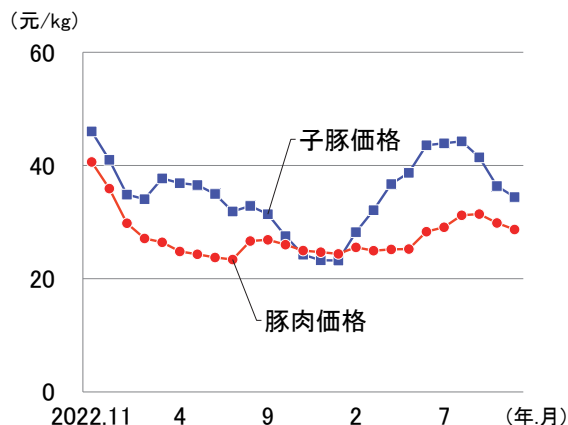
資料：中国農業農村部

注：年間2万頭以上処理すると畜場でのと畜頭数（全体のと畜頭数の約3割）。

24年11月の豚肉価格、前年同月比14.9%高

2024年11月の豚肉価格は、前月比3.9%安の1キログラム当たり28.7元（631円：1元＝21.97円^{（注）}、前年同月比14.9%高）となった（図3）。この要因について中国農業農村部は、24年12月に公表した「農産物需給動向分析月報（2024年11月）」で、同年8月以降、生後5カ月以上の肥育豚頭数が

図3 豚肉および子豚価格の推移



資料：中国農業農村部

増加していることで、養豚企業各社が豚肉価格のさらなる下落を見越して出荷を早め、市場への豚肉供給量の増加につながったためとしている。

一方、豚肉生産にも影響する子豚価格を見ると、同年11月は前月比5.4%安の同34.4元（756円、同42.0%高）となった。

今後の豚肉価格と子豚価格について同部は、春節（旧正月）に向けた豚肉の塩蔵製品やハム、ソーセージなどの製造が最盛期を迎え、さらに、年末の豚肉消費需要が大幅に増加することから、春節前に緩やかに上昇するとしている。一方、春節後の閑散期も豚の出荷頭数は増え続けるため、豚肉価格は下落

する可能性が高いとしている。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

24年 1 ～ 11月の豚肉輸入量、前年同期比34.5%減

2024年 1 ～ 11月の豚肉輸入量は96万1840トン（前年同期比34.5%減）となり、最大の輸入先であるスペインをはじめ、すべての主要輸入先で前年同期を大幅に下回った（表）。この要因について農業農村部は、国産の豚肉価格が下落に転じ、輸入事業者の購買意欲が減退したためとしている。

表 主要輸入先別豚肉輸入量の推移

（単位：万トン）

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1 ～ 11月)	前年同期比 (増減率)
スペイン	93.3	109.7	46.9	37.8	26.4	▲25.5%
ブラジル	48.0	54.6	41.7	40.2	22.0	▲41.7%
オランダ	41.0	23.6	11.4	13.2	6.9	▲45.3%
カナダ	26.5	27.7	12.3	12.0	6.9	▲39.7%
チリ	16.5	13.8	7.2	8.4	6.4	▲17.0%
米国	69.6	39.8	12.6	12.3	6.1	▲48.1%
その他	135.3	88.1	42.3	30.1	21.5	▲28.5%
合計	430.2	357.3	174.4	154.1	96.2	▲34.5%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは0203。

（調査情報部 平山 宗幸）

鶏 肉

タ イ

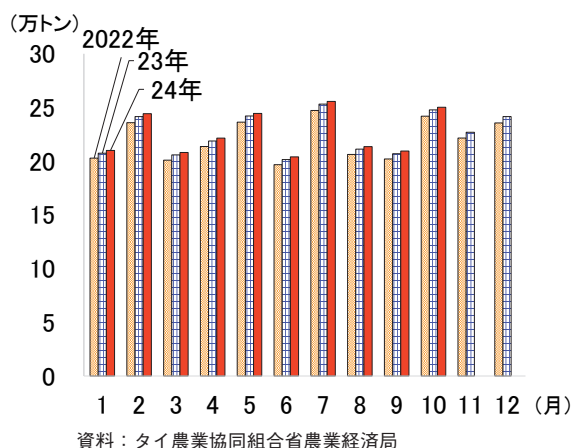
鶏肉生産は好調、鶏肉卸売価格は低迷

24年 1 ～ 10月の鶏肉生産、前年同期比1.1%増

タイ農業協同組合省農業経済局によると、2024年 1 ～ 10月の鶏肉生産量は226万972トン（前年同期比1.1%増）とわずかに増加した（図1）。同国が、鶏肉製品の輸出世界一を目指す中、鶏肉生産量は着実に増加している（注1）。

（注1）『畜産の情報』2024年12月号「タイの鶏肉需給動向 ～世界的に需要が高まる鶏肉製品で輸出世界一を目指す～」
（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_003513.html）をご参照ください。

図1 鶏肉生産量の推移



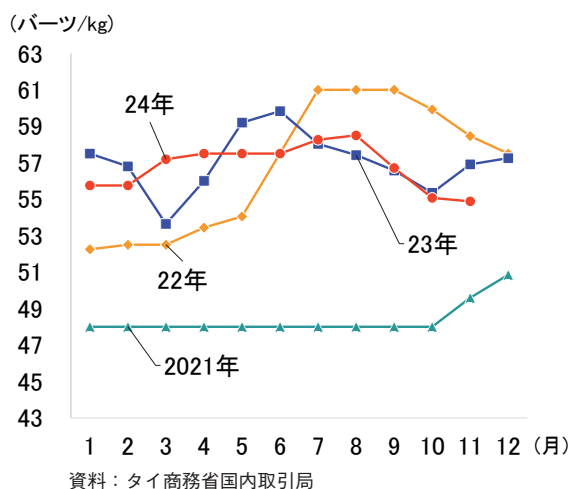
24年11月の鶏肉卸売価格、前年同月比3.6%安

2024年11月の鶏肉卸売価格は、前年同月比3.6%安の1キログラム当たり54.88バーツ（259円：1バーツ＝4.72円（注2））とやや下回った（図2）。

鶏肉価格の低迷についてタイ農業協同組合省農業経済局は、24年11月に公表した報告書で、需要に対して鶏肉生産量が過剰であることを挙げている。一方、現地業界関係者によれば、鶏肉価格は同国の景気に比例して低調であったが、10月に雨季が明け、菜食週間（10月上旬）と学校の秋休み（10月中下旬）が終わり、年末に向けて祭事が増えることで鶏肉需要が上向いており、回復の兆しがみられるとされている。

（注2）三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

図2 鶏肉卸売価格の推移



24年 1 ～ 10月の冷凍鶏肉輸出量、前年同期比3.3%減

2024年 1 ～ 10月の冷凍鶏肉の輸出量は、38万4411トン（前年同期比3.3%減）とやや減少した（表1）。主要な輸出先別に見ると、

高水準となった前年同期の反動で中国、韓国および香港向けは減少したが、マレーシア向けはわずかに増加した。日本向けは外食産業

を中心に引き続き鶏肉需要が強いことから、15万1148トン（同9.4%増）とかなりの程度増加した。

表1 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	15.2	14.3	13.6	16.6	15.1	9.4%
中国	11.5	10.4	8.5	11.5	9.4	▲4.9%
マレーシア	4.1	4.7	7.2	9.1	7.6	1.4%
韓国	0.8	1.3	1.2	3.2	1.9	▲30.1%
香港	0.9	1.0	1.0	3.6	0.8	▲76.4%
その他	3.3	3.2	3.3	3.2	3.7	47.2%
合計	35.7	34.9	34.9	47.2	38.4	▲3.3%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは020714。

24年1～10月の鶏肉調製品の輸出量、前年同期比14.2%増

2024年1～10月の鶏肉調製品輸出量は、56万5781トン（前年同期比14.2%増）とかなり大きく増加した（表2）。日本向けは、円安で推移する為替相場の影響などがあるものの、引き続き外食や中食・総菜向けなどの引き合いが強く、25万2705トン（同5.6%増）とやや増加した。

25年のタイの鶏肉輸出量（鶏肉および

鶏肉調製品）について、国営クルンタイ銀行傘下のシンクタンクであるクルンタイ・コンパスの報告書では、（1）日本の中食向けと欧州の外食産業向けに鶏肉調製品の需要が増加していること（2）中国およびベトナムでのアフリカ豚熱発生以降、両国の鶏肉需要が増加している一方、世界的な高病原性鳥インフルエンザの流行によりタイ産鶏肉の引き合いが強まること一などから、前年比3.6%増と予測している。

表2 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

(単位：万トン)

国名	2020年	21年	22年	23年	24年 (1～10月)	前年同期比 (増減率)
日本	29.2	28.8	31.1	28.6	25.3	5.6%
英国	14.2	13.6	17.3	16.1	16.6	24.6%
オランダ	2.8	3.9	5.6	4.1	3.7	9.5%
韓国	2.4	2.1	3.1	2.9	2.5	▲0.8%
その他	6.1	6.7	8.1	8.0	8.6	33.4%
合計	54.6	55.0	65.2	59.6	56.6	14.2%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは160232。

(調査情報部 平山 宗幸)

牛乳・乳製品

E U

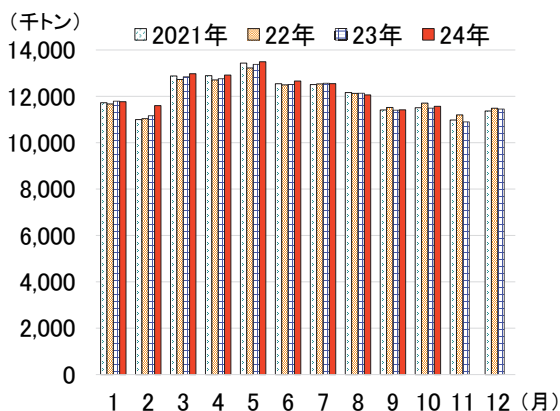
24年10月の生乳出荷量、前年同月をわずかに上回る

24年10月の生乳出荷量、前年同月比0.7%増

欧州委員会によると、2024年10月の生乳出荷量（EU27カ国）は、1156万8000トン（前年同月比0.7%増）と前年同月をわずかに上回った（図1）。主要生産国別に見ると、フランス（同1.1%増）、ポーランド（同3.3%増）が前年同月を上回った一方、ドイツ（同2.3%減）、オランダ（同1.6%減）、イタリア（同0.5%減）は前年同月を下回った。

アイルランドは、9月に19カ月ぶりの増加に転じ、10月も同14.8%増と2カ月連続で前年同月を上回った。23年冬から24年春にかけての多雨による放牧の遅れや、夏の日照不足による牧草の生育不良が生乳出荷量に影響したが、9～10月は牧草の状態が良好となったことが生乳出荷量の増加につながった。

図1 生乳出荷量の推移



資料：欧州委員会「Eurostat」

注1：直近月は速報値。

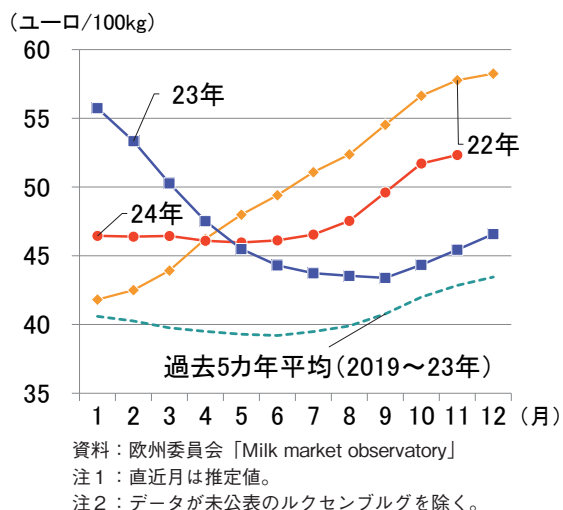
注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年11月の生乳取引価格、前年同月比15.2%高

欧州委員会によると、2024年11月の生乳取引価格（EU27カ国の平均）は、100キログラム当たり52.33ユーロ（1キログラム当たり87.1円：1ユーロ＝166.42円^{（注）}、前年同月比15.2%高）と7カ月連続で前年同月を上回った（図2）。生乳出荷量が停滞する中で、バターをはじめとする乳製品価格の上昇から生乳取引価格は堅調に推移している。

（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

図2 生乳取引価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

注1：直近月は推定値。

注2：データが未公表のルクセンブルグを除く。

24年12月のバター価格、過去最高を記録

欧州委員会によると、2024年12月15日の週の乳製品価格（EU27カ国の平均）は、

脱脂粉乳が100キログラム当たり255ユーロ（1キログラム当たり424円、前年同期比1.5%安）と前年同期をわずかに下回ったが、全粉乳が同431ユーロ（同717円、同17.2%高）、チーズが同431ユーロ（同717円、同19.1%高）といずれも前年同期を上回った（図3）。

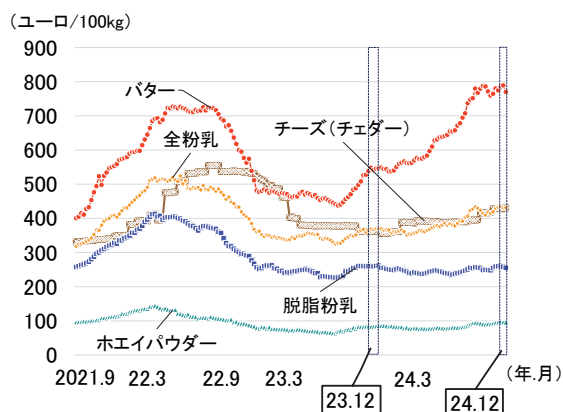
特にバターは、同770ユーロ（同1281円、同42.1%高）となり、前週の過去最高となった同789ユーロには及ばないものの、前年

同期を大幅に上回って推移している。これは、同年1～9月は、需要が堅調なチーズやクリームに生乳が仕向けられ、バターの生産量が減少したことが影響しており、また、米国農務省農業マーケティング局（USDA/AMS）によると、価格の下落を見越した買い控えがあるものの、年末のバター工場の停止からバター価格は高値で推移するとしている。

24年第1～3四半期の乳製品輸出量は、チーズを除き前年同期比減

欧州委員会によると、2024年第1～3四半期（1～9月）の域外向け乳製品輸出量は、チーズを除く乳製品3品目で前年同期を下回った（表）。中でも、脱脂粉乳は前年同期比8.9%減とかなりの程度、全粉乳は同19.9%減と大幅に減少した。これは、中国の輸入需要減退や、価格競争力で優位なニュージーランドが中東やアフリカ向けの輸出を増やしたことによるとみられる。

図3 乳製品価格の推移



資料：欧州委員会「Milk market observatory」

表 主な乳製品の輸出量の推移

（単位：千トン）

バター				脱脂粉乳				チーズ				全粉乳			
輸出先	2023年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)	輸出先	23年 (1～9月)	24年 (1～9月)	前年同期比 (増減率)
米国	33.7	45.5	34.8%	アルジェリア	119.9	140.2	16.9%	英国	327.5	321.0	▲2.0%	オマーン	35.8	36.4	1.8%
英国	33.8	36.7	8.7%	エジプト	36.4	41.1	12.9%	米国	92.9	102.8	10.6%	英国	14.6	12.5	▲14.0%
中国	11.6	13.4	15.7%	フィリピン	20.4	32.7	60.4%	日本	76.6	63.3	▲17.3%	中国	10.6	11.3	6.3%
韓国	9.0	9.1	0.7%	サウジアラビア	32.6	28.7	▲11.9%	スイス	53.6	56.4	5.1%	クウェート	7.6	11.0	43.9%
サウジアラビア	13.2	8.3	▲37.1%	中国	62.0	23.9	▲61.4%	韓国	43.4	43.7	0.7%	ドミニカ共和国	8.0	6.0	▲25.1%
アラブ首長国連邦	4.2	5.2	23.5%	ナイジェリア	14.6	22.5	54.4%	サウジアラビア	30.7	31.0	1.2%	サウジアラビア	4.5	5.6	23.7%
インドネシア	3.4	4.9	43.3%	イエメン	25.7	22.1	▲14.1%	ウクライナ	24.3	25.4	4.7%	ナイジェリア	12.0	4.7	▲60.6%
モロッコ	6.2	4.3	▲30.8%	モロッコ	20.2	21.9	8.4%	中国	25.8	23.7	▲8.4%	セネガル	4.9	4.7	▲4.0%
その他	75.5	59.3	▲21.5%	その他	291.4	234.7	▲19.5%	その他	359.3	369.4	2.8%	その他	110.2	74.5	▲32.4%
合計	190.8	186.7	▲2.1%	合計	623.2	567.9	▲8.9%	合計	1,034.3	1,036.7	0.2%	合計	208.0	166.6	▲19.9%

資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコードは、バターが0405.10、脱脂粉乳が0402.10、チーズが0406、全粉乳が0402.21と0402.29。

注2：四捨五入により、輸出先の計と合計欄は一致しないことがある。

（調査情報部 渡辺 淳一）

豪州

11月の生乳生産量は前年同月並みも主要乳製品の輸出は好調

24年11月の生乳生産量、前年同月比0.2%減

デイリー・オーストラリア（DA）が2024年12月に公表した「Milk Production Reports」によると、24年11月の生乳生産量は、前年同月比0.2%減の86万7973キロリットル（89万4012トン相当）となり、16カ月ぶりに前年同月を下回った（図1）。

この結果、24/25年度（7月～翌6月）の7～11月までの累計生乳生産量は、前年同期比1.3%増の385万9081キロリットル（397万4853トン相当）となった。

24/25年度の生乳生産量についてDAは、24年12月に公表した「Situation and Outlook Report」の中で、前年度比1%減の830万キロリットル（855万トン相当）と予測している。この理由についてDAは、（1）酪農地帯であるビクトリア州西部やタスマニア州などで乾燥状態が続いており、牧草の生育に懸念があること（2）経営コストが高止まりしている中、新年度当初乳価が

引き下げられ^{（注1）}、酪農家の生乳増産意欲が低下していること（3）労働力不足や酪農家の廃業といった長期的課題が継続していることなどを挙げている。

一方、現地報道によれば、同年12月に入り、乳業大手の豪州フォンテラ社、豪州サポート社、ベガ社の3社が、生乳の固形分1キログラム当たりの乳価を同年度当初乳価から0.15豪ドル（15円：1豪ドル＝100.50円^{（注2）}）引き上げると発表しており、今後の生乳生産への効果が注目される。

（注1）海外情報（令和6年6月11日発）「生乳需要の低迷を受け2024/25年度当初乳価を引き下げ提示（豪州）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_003835.html）をご参照ください。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

24年10月の主要乳製品の輸出量、全品目で増加

DAが2024年12月に公表した「Dairy Export Summary」によると、24年10月の主要乳製品4品目の輸出量は、全品目で前年同月を上回った（表、図2）。

脱脂粉乳は、中国向けが大きく減少したものの、東南アジア向けが大きく増加したことを受け、前年同月比で大幅に増加した。全粉乳は、主要輸出先である中国やアラブ首長国連邦向けが増加したことを受け、大幅に増加した。バターおよびバターオイルは、東南アジアのみならず日本やメキシコなどからの引き合いが強まったことを受け、大幅に増加した。チーズは、主要輸出先である日本や中国などアジア向けが堅調に推移したことを受け、かなりの程度増加した。

図1 月別生乳生産量の推移

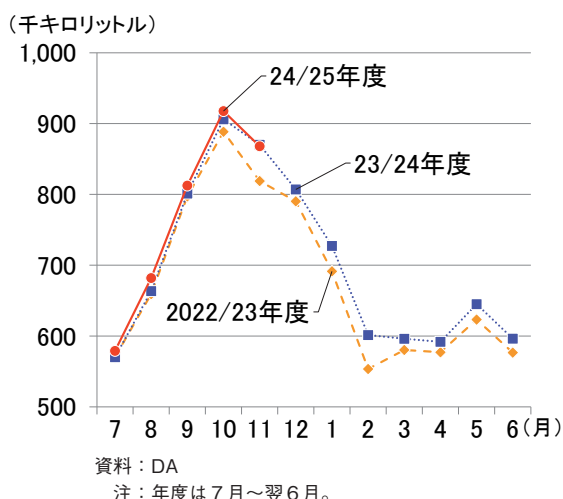


表 乳製品輸出品の推移

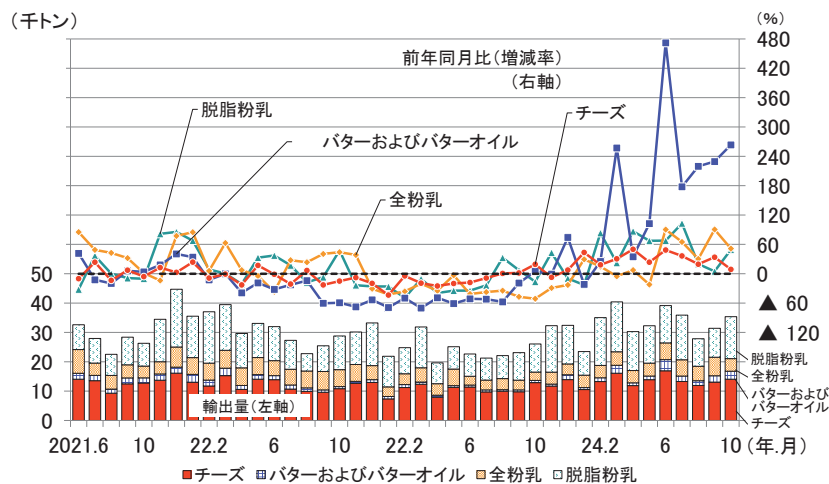
(単位：トン)

品目	2023年 10月	24年 10月	前年同月比 (増減率)	24/25年度 (7月～10月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	9,588	14,303	49.2 %	48,743	42.1 %
全粉乳	2,832	4,288	51.4 %	21,068	58.6 %
バターおよびバターオイル	750	2,727	263.4% (約3.6倍)	8,347	223.9% (約3.2倍)
チーズ	12,904	14,053	8.9 %	52,348	23.4 %

資料：DA

注：製品重量ベース。

図2 乳製品輸出品および前年同月比（増減率）の推移



資料：DA

注：製品重量ベース。

(調査情報部 平山 宗幸)

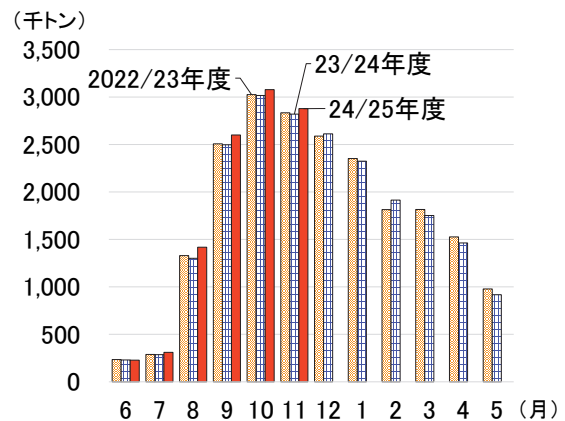
N Z

24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

24年11月の生乳生産量、5カ月連続で前年を上回る

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2024年11月の生乳生産量は287万8千トン（前年同月比2.1%増）とわずかに増加し、5カ月連続で前年同月を上回った（図1）。順調な生乳生産が続いている要因としてニュージーランド証券取引所（NZX）は、天候の好転による放牧環境の安定を挙げて

図1 生乳生産量の推移



資料：DCANZ

注：年度は6月～翌5月。

いる。今後の生乳生産については、乳価の引き上げなどにより引き続き堅調に推移するとみられる。

24年11月の乳製品輸出量、チーズが増加

ニュージーランド統計局（Stats NZ）によると、2024年11月の乳製品輸出量は、

チーズを除く主要3品目で前年同月を下回った（表、図2）。脱脂粉乳は、マレーシアやサウジアラビア向けが減少し、全粉乳は主要輸出先である中国やUAE向けが減少した。また、バターはサウジアラビアや米国向けが減少した。一方、チーズは、英国向けや主要輸出先である日本、韓国向けが増加した。

表 乳製品輸出量の推移

（単位：トン）

品目	2023年 11月	24年 11月	前年同月比 (増減率)
脱脂粉乳	50,478	43,038	▲14.7%
全粉乳	178,277	164,284	▲7.8%
バターおよびバターオイル	50,076	45,827	▲8.5%
チーズ	31,995	36,861	15.2%

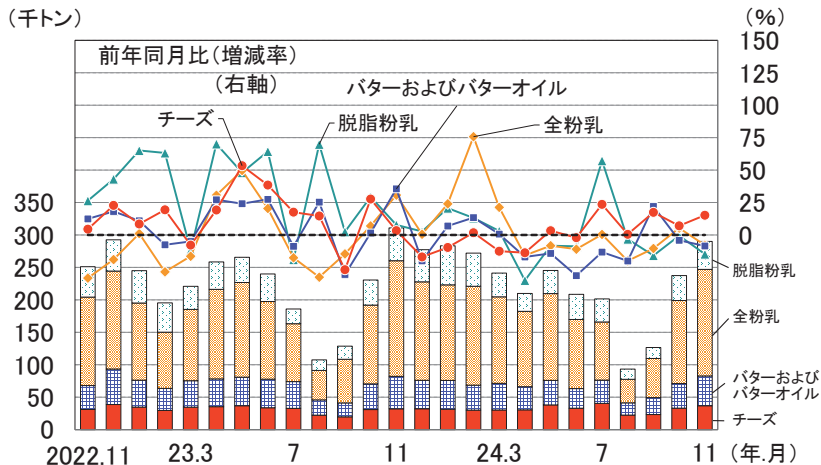
資料：Stats NZ

注1：HSコードは、脱脂粉乳が0402.10、全粉乳が0402.21と0402.29、バターおよびバターオイルが0405.10と0405.90、チーズが0406。

注2：製品重量ベース。

注3：年度は7月～翌6月。

図2 乳製品輸出量および前年同月比（増減率）の推移



資料：Stats NZ

注：製品重量ベース。

乳製品国際相場を反映し、24/25年度の生産者支払乳価を引き上げ

2024年12月17日開催のGDT^(注1) 平均取引価格は、主要4品目がいずれも前回開催時

（同年12月3日）を下回ったものの、前年同期比ではいずれも高値となった（図3）。24年最後の取引となり、北アジアからの購入が減少したことで、全乳製品の平均取引価格は1トン当たり4148米ドル（66万279円：

1米ドル＝159.18円^(注2)、前回比1.1%安)となった。NZXによると、価格上昇となった全粉乳は、クリスマスや旧正月を控えて各地域が備蓄を進めていることが要因と分析されている。

このような中、NZ乳業最大手のフォンテラ社は24年12月5日、24/25年度(6月～翌5月)の生産者支払乳価を生乳の固形分^(注3)1キログラム当たり平均0.5NZドル(46円:1NZドル＝91.17円^(注2))引き上げ、平均で同10.0NZドル(912円)にすると発表した。引き上げの理由について同社のハレル

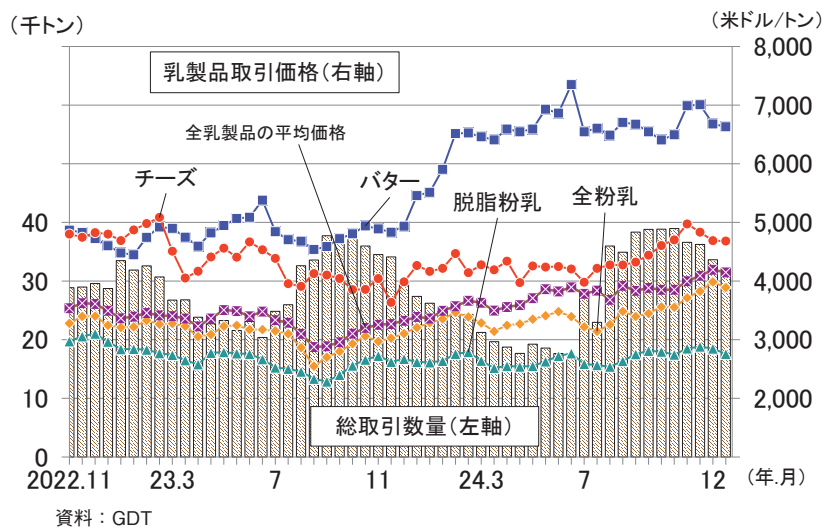
最高経営責任者は、最近の好調なGDT価格によるものと説明している。また、東南アジアからの需要が堅調であり、ニュージーランドのほとんどの地域で生乳生産量が増加している中で、地政学的不安の高まりによる潜在的な影響を含め、世界的な需給バランスに影響を与える可能性のある要因を引き続き注視していくとコメントしている。

(注1) グローバルデイレートレード。月2回開催される電子オークションで、当該価格は乳製品の国際価格の指標とされている。

(注2) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

(注3) 乳脂肪分および乳たんぱく質。

図3 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



(調査情報部 田中 美宇)

飼料穀物

世界

消費量の微増などから期末在庫はかなりの程度減少

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年12月10日、24/25年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表）。

これによると、同年度の世界のトウモロコシ生産量は12億1789万トン（前年度比1.0%減）と前月から151万トン下方修正された。このうち、ウクライナは前月から上方修正されたが、EUやインドネシア、メキシコなどの下方修正がこれを上回った。中でもメキシコは、冬トウモロコシの作付面積減少が見込まれており、加えて北西部では、高温干ばつにより10月の貯水池水位が同月としては過去22年間で最も低くなっているため、収穫への影響も危惧されている。

輸入量は、世界全体で1億8392万トン（同6.7%減）と前月から51万トン上方修正された。

このうち、ブラジルとの貿易量が減少した中国は前月から下方修正されたが、EUやバングラデシュ、メキシコなどの上方修正が補った。

消費量は、世界全体で12億3766万トン（同1.6%増）と前月から818万トン上方修正された。このうち、米国やブラジル、EUなどで前月から上方修正されたことが寄与した。

輸出量は、世界全体で1億9304万トン（前年度並み）と前月から321万トン上方修正された。最大の輸出国である米国が6287万トンと前月から381万トン上方修正されたことが寄与した。

この結果、期末在庫は米国や中国、EUでの下方修正を反映し、2億9644万トン（前年度比6.3%減）と前月から770万トン下方修正された。

表 主要国のトウモロコシの需給見通し（2024年12月10日米国農務省公表）

（単位：百万トン）

国名	2022/23 年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度			
			(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)	
米国	期首在庫	34.98	34.55	44.72	44.72	29.4%
	生産量	346.74	389.67	384.64	384.64	▲ 1.3%
	輸入量	0.98	0.72	0.64	0.64	▲ 11.1%
	消費量	305.93	322.00	321.71	322.98	0.3%
	輸出量	42.22	58.23	59.06	62.87	8.0%
	期末在庫	34.55	44.72	49.23	44.15	▲ 1.3%
ブラジル	期首在庫	3.97	10.04	5.84	7.84	▲ 21.9%
	生産量	137.00	122.00	127.00	127.00	4.1%
	輸入量	1.33	1.30	1.50	1.50	15.4%
	消費量	78.00	84.00	83.50	85.50	1.8%
	輸出量	54.26	41.50	48.00	48.00	15.7%
	期末在庫	10.04	7.84	2.84	2.84	▲ 63.8%
アルゼンチン	期首在庫	4.75	2.32	4.09	4.09	76.3%
	生産量	37.00	50.00	51.00	51.00	2.0%
	輸入量	0.02	0.02	0.01	0.01	▲ 50.0%
	消費量	14.20	15.25	16.30	16.30	6.9%
	輸出量	25.24	33.00	36.00	36.00	9.1%
	期末在庫	2.32	4.09	2.79	2.79	▲ 31.8%
ウクライナ	期首在庫	7.80	2.80	1.46	1.57	▲ 43.9%
	生産量	27.00	32.50	26.20	26.50	▲ 18.5%
	輸入量	0.02	0.01	0.02	0.02	100.0%
	消費量	4.90	4.25	4.05	4.45	4.7%
	輸出量	27.12	29.49	23.00	23.00	▲ 22.0%
	期末在庫	2.80	1.57	0.63	0.64	▲ 59.2%
EU	期首在庫	11.51	8.08	7.48	7.25	▲ 10.3%
	生産量	52.38	61.87	58.80	58.00	▲ 6.3%
	輸入量	23.19	19.79	19.00	19.50	▲ 1.5%
	消費量	74.80	78.10	75.10	75.70	▲ 3.1%
	輸出量	4.20	4.39	3.30	2.50	▲ 43.1%
	期末在庫	8.08	7.25	6.88	6.55	▲ 9.7%
中国	期首在庫	209.14	206.04	211.29	211.29	2.5%
	生産量	277.20	288.84	292.00	292.00	1.1%
	輸入量	18.71	23.41	16.00	14.00	▲ 40.2%
	消費量	299.00	307.00	313.00	313.00	2.0%
	輸出量	0.01	0.00	0.02	0.02	—
	期末在庫	206.04	211.29	206.27	204.27	▲ 3.3%
世界計	期首在庫	314.04	304.66	314.22	316.22	3.8%
	生産量	1163.38	1229.63	1219.40	1217.89	▲ 1.0%
	輸入量	173.40	197.13	183.41	183.92	▲ 6.7%
	消費量	1172.76	1218.07	1229.48	1237.66	1.6%
	輸出量	180.34	193.03	189.83	193.04	0.0%
	期末在庫	304.66	316.22	304.14	296.44	▲ 6.3%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：各国の穀物年度 世界、米国：9月～翌8月/ウクライナ、EU、中国：10月～翌9月/アルゼンチン、ブラジル：3月～翌2月。

注2：「—」は実績のないもの。

（調査情報部 岡田 真希奈）

大豆の生産量、消費量ともに上方修正、 期末在庫は引き続き大幅増の見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2024年12月10日、24/25年度の世界の大豆需給予測値を更新した（表）。
これによると、同年度の世界の大豆生産量は4億2714万トン（前年度比8.2%増）と前月から174万トン上方修正された。この

表 主要国の大豆需給見通し（2024年12月10日米国農務省公表）
(単位：百万トン)

国名	2022/23年度	23/24年度 (推計値)	24/25年度		
			(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)
米国	期首在庫	7.47	7.19	9.31	29.5%
	生産量	116.22	113.27	121.42	7.2%
	輸入量	0.67	0.57	0.41	▲ 28.1%
	消費量	60.20	62.24	65.59	5.4%
	輸出量	53.87	46.13	49.67	7.7%
	期末在庫	7.19	9.31	12.80	37.5%
ブラジル	期首在庫	27.38	36.82	27.96	▲ 24.0%
	生産量	162.00	153.00	169.00	10.5%
	輸入量	0.15	0.87	0.15	▲ 82.8%
	消費量	53.41	54.70	54.00	▲ 1.3%
	輸出量	95.50	104.17	105.50	1.3%
	期末在庫	36.82	27.97	33.51	19.8%
アルゼンチン	期首在庫	23.69	17.00	24.08	41.6%
	生産量	25.00	48.21	51.00	7.9%
	輸入量	9.06	7.79	6.00	▲ 23.0%
	消費量	30.32	36.55	40.00	12.2%
	輸出量	4.19	5.11	4.50	▲ 11.9%
	期末在庫	17.00	24.08	28.98	20.3%
中国	期首在庫	25.15	32.34	43.31	33.9%
	生産量	20.28	20.84	20.70	▲ 0.7%
	輸入量	104.50	112.00	109.00	▲ 2.7%
	消費量	96.00	99.00	103.00	4.0%
	輸出量	0.09	0.07	0.10	42.9%
	期末在庫	32.34	43.31	46.01	6.2%
世界計	期首在庫	92.90	101.10	112.42	10.9%
	生産量	378.16	394.87	425.40	8.2%
	輸入量	167.89	177.66	177.91	0.3%
	消費量	315.04	330.93	346.15	5.0%
	輸出量	171.75	177.47	181.71	2.5%
	期末在庫	101.10	112.16	131.74	17.6%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月／ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。
注2：消費量は搾油仕向量である。

うち、最大の生産国であるブラジルは1億6900万トン（同10.5%増）、これに次ぐ米国は1億2142万トン（同7.2%増）といずれも前月から据え置かれた。また、アルゼンチンは5200万トン（同7.9%増）と前月から100万トン上方修正され、中国は2070万トン（同0.7%減）と前月から据え置かれた。

輸入量は、世界全体で1億7818万トン（同0.3%増）と前月から27万トン上方修正された。このうち、最大の輸入国である中国は1億900万トン（前年度比2.7%減）と前月から据え置かれた。

消費量（搾油仕向け）は、世界全体で3億4742万トン（同5.0%増）と前月から127万トン上方修正された。このうち、最大の消費国である中国は1億300万トン（同4.0%増）と前月から据え置かれた。

輸出量は、世界全体で1億8197万トン（同2.5%増）と前月から26万トン上方修正された。このうち、最大の輸出国であるブラジルは1億550万トン（同1.3%増）、これに次ぐ米国は4967万トン（同7.7%増）といずれも前月から据え置かれた。

この結果、期末在庫は1億3187万トン（同17.6%増）と前月から13万トン上方修正された。

今回の予測では、米国の生産量は据え置かれ、期末在庫は市場関係者による事前予想の範囲内にとどまったとされるが、24/25年度の大豆油かす期末在庫の増加見込みなどを踏まえてUSDAは、米国の生産者販売価格を前年度比17.7%安の1ブッシェル当たり10.20米ドル（1624円、1キログラム当たり64円^{（注1）}：1米ドル＝159.18円^{（注2）}）に引き下げている。

また、今回の予測値に関して中国の輸入量に目を向けると、同日付で中国農業農村部が公表した同年度の中国の大豆輸入量9460万トンとは引き続き乖離^{かいり}があり、期末在庫が高い水準にある中で、今後の動向が注目される。

（注1）1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

（調査情報部 横田 徹）

米 国

総消費量の増加により期末在庫はわずかに減少

USDA/WAOBは2024年12月10日、24/25年度（9月～翌8月）の米国のトウモロコシ需給見通しを公表した（表）。

生産量は前月から据え置かれ、151億4300万ブッシェル（3億8465万トン^{（注1）}）と見込まれている。

米国内消費量は、127億1500万ブッシェル（3億2297万トン、前年度比0.3%増）と前月から上方修正され、前年度並みと見込

まれている。このうち、エタノール向けトウモロコシについては、24年9月から11月までの使用量が17年以来最高値とされている。

輸出量は、24億7500万ブッシェル（6287万トン、同8.0%増）と前年度をかなりの程度上回る高水準とされている。

この結果、期末在庫は17億3800万ブッシェル（4415万トン、同1.3%減）と、総消費量が上方修正された影響で前月から下方

修正され、前年度をわずかに下回ると見込まれている。

また、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は、11.4%（同0.4ポイント減）と前月から1.5ポイント下方修正され、前年度を下回ると見込まれている。

生産者平均販売価格は、1 ブッシェル当たり4.10米ドル（653円、1 キログラム当たり

り25.7円：1 米ドル＝159.18円^{（注2）}、同9.9%安）と前月から据え置かれ、前年からのかなりの程度下落することが見込まれている。

（注1）1 ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。
（注2）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

表 米国のトウモロコシの需給見通し（2024年12月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2022/23 年度	23/24 年度 (推計値)	24/25年度			
				(10月予測)	(11月予測)	参考（換算値）	前年度比 (増減率)
作付面積	(百万エーカー)	88.2	94.6	90.7	90.7	36.71（百万ヘクタール）	▲4.1%
収穫面積	(百万エーカー)	78.7	86.5	82.7	82.7	33.47（百万ヘクタール）	▲4.4%
単収	(ブッシェル/エーカー)	173.4	177.3	183.1	183.1	11.49（トン/ヘクタール）	3.3%
期首在庫	(百万ブッシェル)	1,377	1,360	1,760	1,760	44.71（百万トン）	29.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,651	15,341	15,143	15,143	384.65（百万トン）	▲1.3%
輸入量	(百万ブッシェル)	39	28	25	25	0.64（百万トン）	▲10.7%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,066	16,729	16,928	16,928	429.99（百万トン）	1.2%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,044	12,676	12,665	12,715	322.97（百万トン）	0.3%
飼料等向け	(百万ブッシェル)	5,486	5,807	5,825	5,825	147.96（百万トン）	0.3%
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,558	6,869	6,840	6,890	175.01（百万トン）	0.3%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	5,176	5,478	5,450	5,500	139.71（百万トン）	0.4%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,662	2,292	2,325	2,475	62.87（百万トン）	8.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,706	14,969	14,990	15,190	385.84（百万トン）	1.5%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,360	1,760	1,938	1,738	44.15（百万トン）	▲1.3%
期末在庫率	(%)	9.9	11.8	12.9	11.4		0.4ポイント減
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	6.54	4.55	4.10	4.10	25.7（円/kg）	▲9.9%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1 ブッシェルは約25.401キログラム、1 エーカーは約0.4047ヘクタール。

注3：換算値は端数処理の関係で表1と一致しない場合がある。

（調査情報部 岡田 真希奈）

ブラジル

24/25年度第1期作トウモロコシ、大豆の生育状況はおおむね良好

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は2024年12月12日、24/25年度第3回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表、図1～2）。この調査は、春植えの

夏期作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋植えの冬期作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測を毎月公表するものである。

表 2023/24年度の主要穀物等の生産予測

	作付面積（千ha）				単収（トン/ha）				生産量（千トン）			
	2023/24	24/25			23/24	24/25			23/24	24/25		
		(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)		(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)		(11月予測)	(12月予測)	前年度比 (増減率)
穀物合計	79,944.6	81,403.0	81,394.5	1.8%	3.7	4.0	4.0	6.3%	297,940	322,532.6	322,424.6	8.2%
トウモロコシ	21,050.8	21,011.2	20,982.6	▲0.3%	5.5	5.7	5.7	3.7%	115,697.2	119,813.8	119,633.3	3.4%
第1期作	3,970.1	3,765.2	3,736.6	▲5.9%	5.8	6.1	6.1	4.6%	22,962.2	22,795.2	22,614.8	▲1.5%
第2期作	16,437.4	16,596.6	16,596.6	1.0%	5.5	5.7	5.7	3.8%	90,255.0	94,631.3	94,631.3	4.8%
第3期作	643.3	649.4	649.4	0.9%	3.9	3.7	3.7	▲4.7%	2,480.3	2,387.1	2,387.1	▲3.8%
大豆	46,148.8	47,356.5	47,369.8	2.6%	3.2	3.5	3.5	9.6%	147,718.7	166,143.4	166,211.1	12.5%

資料：CONAB

注1：2024年12月12日公表データ。

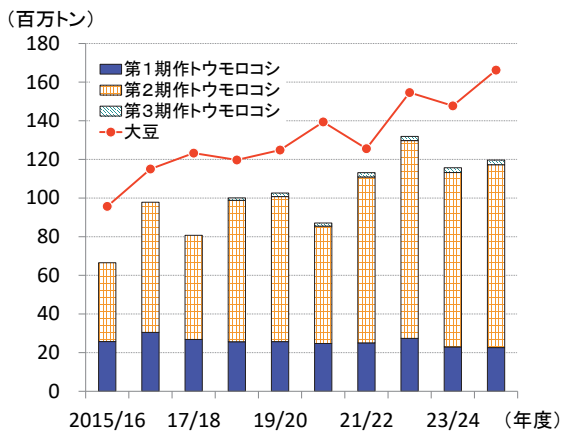
注2：第1期作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2期作トウモロコシは、主に中西部と南部/パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3期作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図1 トウモロコシと大豆の生産量の推移

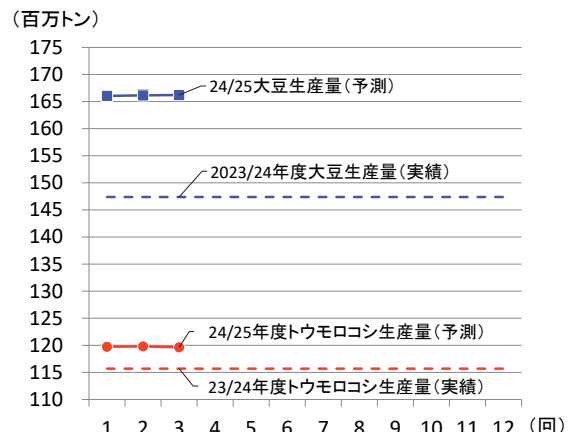


資料：CONAB

注1：2024/25年度は予測値。

注2：2024年12月12日公表データ。

図2 2024/25年度の生産予測の推移



資料：CONAB

注：生産予測の第1回は10月公表、以降毎月更新。

24/25年度トウモロコシ輸出量は2年連続で減少の見込み

2024/25年度のトウモロコシ生産量は、前回より18万500トン下方修正の1億1963万3300トン（前年度比3.4%増）とされ、前年度をやや上回ると見込まれている。これは、作付面積が前年度並み（同0.3%減）にとどまるものの、単収が前年度の不安定な天候などの影響による減少から回復（同3.7%増）が見込まれるためである。この結果、24/25年度のトウモロコシ生産量は、

CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度に次ぐ大きさとなる。

全生産量の2割を占める第1期作の生産量は、2261万4800トン（同1.5%減）と前年度をわずかに下回ると見込まれている。これは、トウモロコシ市場価格の下落などにより生産者の収益性が低下し、生産者が他の作物（大豆、サトウキビ、酪農家向けコーンサイレー^{はしゅ}ージなど）を選択したためである。第1期作の播種作業は、作付面積全体の72.2%（12月7日現在）で終了し、前年同期（同65.9%）を上回るペースで進んでいる。

生産地での天候は定期的な降雨に恵まれおおむね良好で、作物の生育に好都合な状況にある。

また、全生産量の8割を占める第2期作の生産量は、9463万1300トン（同4.8%増）と前年度をやや上回ると見込まれている。作付面積および単収とも前年度を上回っており、全体のトウモロコシ生産量の増加見込みにつながっている。通常、年明けから始まる第2期作の播種作業は、定期的な降雨に恵まれず播種の開始時期が遅れた大豆の影響を受けて、中西部および南部地域では通常より若干の開始時期の遅れが見込まれている。

24/25年度のトウモロコシ需給を見ると、生産量は回復するものの、農業および工業部門からの堅調な需要を背景に、国内需要は引き続き増加が見込まれている。このため、輸出量は前年度より200万トン少ない3400万トン（同5.6%減）と2年続けての減少が見込まれている。

24/25年度大豆播種作業は当初の遅れを挽回し、12月初旬時点で9割終了

2024/25年度の大豆生産量は、前回よりわずかに上方修正の1億6621万1100トン（前年度比12.5%増）と前年度をかなり大きく上回り、CONABが統計を取り始めて以来、最大となった22/23年度の生産量を更新すると見込まれている。これは、作付面積が前年度をわずかに上回る（同2.6%増）ことに加え単収が前年度の悪天候による減少から回復し、前年度をかなりの程度上回る（同9.6%増）と見込まれるためである。播種作業は、作付面積全体の94.1%（12月7日現在）で終了し、前年同期（同89.9%）を上回るペースで進んでいる。播種作業は当初、不規則な降雨により出遅れたが、11月に入りほとんどの生産地で規則的な降雨と適度な日照に恵まれたことで、作業の遅れを取り戻している。

参考1 ブラジルのトウモロコシ需給動向

（単位：千トン）

年度	2021/22	22/23	23/24	24/25	増減率（%）
期首在庫量	15,312.1	8,095.9	7,068.4	4,422.5	▲37.4
生産量	87,096.8	131,892.6	115,697.2	119,633.3	3.4
輸入量	3,090.7	1,313.2	1,900.0	1,900.0	0.0
供給量	105,499.6	141,301.7	124,665.6	125,955.8	1.0
消費量	71,168.6	79,598.9	84,243.1	87,030.3	3.3
輸出量	20,815.7	54,634.4	36,000.0	34,000.0	▲5.6
需要量計	91,984.3	134,233.3	120,243.1	121,030.3	0.7
期末在庫量	13,515.3	7,068.4	4,422.5	4,925.5	11.4

資料：CONAB

注：2024年12月12日公表データ。

参考2 ブラジル大豆需給動向

(単位：千トン)

年度	2021/22	22/23	23/24	24/25	増減率 (%)
期首在庫量	11,180.1	8,725.3	7,162.5	1,981.9	▲72.3
生産量	126,479.6	155,713.4	147,718.7	166,211.1	12.5
輸入量	419.2	181.0	1,000.0	500.0	▲50.0
種子/その他	2,862.5	3,339.5	3,403.0	3,600.0	5.8
輸出量	78,730.1	101,862.6	98,000.0	105,475.7	7.6
加工量	47,761.0	52,255.0	52,496.4	56,603.2	7.8
期末在庫量	8,725.3	7,162.5	1,981.9	3,014.1	52.1

資料：CONAB

注：2024年12月12日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)

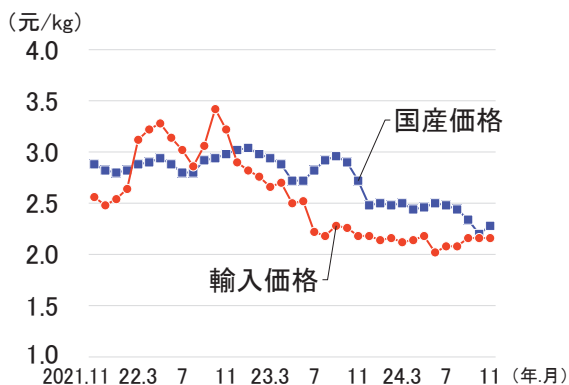
中国

トウモロコシおよび大豆の価格動向

24年11月の国産トウモロコシ価格、 貯蔵計画の拡大などでやや上昇

中国農業農村部は2024年12月20日、「農産物需給動向分析月報（2024年11月）」を公表した。この中で、24年11月の国産トウモロコシ価格は前月からやや上昇した（図1）。同月のトウモロコシ需給を見ると、供給面では新穀のトウモロコシが市場に集中し、全体的

図1 トウモロコシ価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、中国東北部から広東省黄埔港までの運賃込み2級黄トウモロコシ価格。

注2：輸入価格は、米国メキシコ湾積出し2級黄トウモロコシの広東省黄埔港引渡し価格（関税割当数量内：課税後）。

な供給量は十分とされる。需要面では、潤沢な市場供給を背景に飼料企業などは過度な在庫を抱えず、必要量のみを都度購入している状況とされる。このような中で、中国最大の穀物・食品企業である中粮集团有限公司（COFCO）による継続したトウモロコシ貯蔵計画の拡大は、同価格の維持に寄与しているとされている。今後、春節（旧正月）前の需要期を迎えることから、当面の国産トウモロコシ価格はわずかな変動幅での推移が見込まれている。

輸入トウモロコシ価格を見ると、養豚主産地の中国南部向け飼料原料集積地となる広東省^{こうほ}黄埔港到着（関税割当数量内：1%の関税＋25%の追加関税）は、24年11月が1キログラム当たり2.16元（47円：1元＝21.97円^注、前月同）となった。また、同月の国産トウモロコシ価格（東北部産の同港到着価格）が同2.28元（50円、前月比3.6%高）とやや上昇したことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.04元（1円）から同0.12元（3円）に拡大した。

24年11月の国産大豆価格、前月からかなりの程度下落

2024年11月の国産大豆価格は、前月からかなりの程度下落した（図2）。同月の大豆需給を見ると、供給面では新穀の大豆が出荷される中で、旧穀の備蓄大豆の放出も行われており、全体的な供給量は十分とされる。需要面では、冬場の気温低下により大豆および大豆製品を扱う企業からの引き合いが強まっている。また、冬場の悪天候による流通停滞の影響を危惧した企業による在庫確保の動きや、COFCOによる継続した備蓄用大豆の買い入れは、同価格を下支えしているとされている。このため、当面の国産大豆価格は安定的な推移が見込まれている。

各地の価格動向を見ると、主産地である黒竜江省の食用向け国産大豆平均取引価格は、24年11月が1キログラム当たり3.84元（84円、前年同月比21.8%安）と前年同月を大幅に下回った。また、大豆の国内指標価格の一つとなる山東省の国産大豆価格は、同4.30元（94円、同20.3%安）と前年同月を大幅に下回った。同月の輸入大豆価格（山東省

青島港引き渡し価格、課税後）が同3.84元（84円）となったことで、輸入と国産の価格差は前月の同0.56元（12円）から同0.46元（10円）に縮小した。

国際相場に影響する大豆の輸入量は、前年に比べて高い水準にある。24年（1～10月）の輸入量は8994万トン（前年同期比11.2%増）とかなり大きく増加した。輸入額は穀物価格の下落を受けて同7.0%減の455億9400万米ドル（7兆2577億円：1米ドル＝159.18円^{（注）}）と報告されている。主な輸入先はブラジル（総輸入量の75.4%）、米国（同16.8%）、アルゼンチン（同4.0%）である。

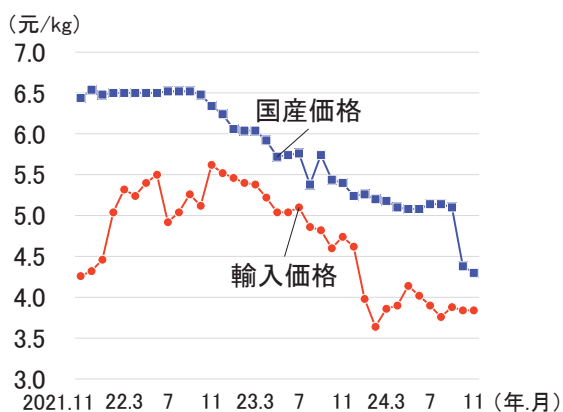
（注）三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社「月末・月中平均の為替相場」の2024年12月末TTS相場。

24/25年度のトウモロコシ生産は過去最高を更新、大豆はわずかに減産

中国農業農村部は2024年12月10日、最新の「中国農産物需給状況分析」を公表した。この中で、24/25年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、前月から317万トン下方修正の2億9384万トン（前年度比1.7%増）と見込まれている（表1）。これは、1ヘクタール当たりの単収が前月から下方修正されたことが影響した。輸入量および消費量は前月から据え置かれたことで、同年度のトウモロコシの過不足は719万トンの余剰（同58.3%減）と見込まれている。

同年度の大豆生産量は、前月から11万トン上方修正の2065万トン（同0.9%減）と見込まれている（表2）。今回の公表では、1ヘクタール当たりの単収が前月から下方修正される一方、作付面積および収穫面積が上方修正されたことで、単収の減少分を補う形となった。輸入量および消費量は前月から

図2 大豆価格の推移



資料：中国農業農村部のデータを基にALIC作成

注1：国産価格は、山東省入荷価格。

注2：輸入価格は、山東省青島港引き渡し価格（課税後）。

据え置かれたことで、同年度の大豆の過不足は51万トンの余剰（同91.6%減）と見込まれている。

同年度は、前年度に続き中央政府が大豆の増産方針を打ち出していたこともあり、主産地での収穫が終了して生産量がほぼ確定する

今回の公表が注目されていた。結果として、下落基調で推移した大豆価格を反映してトウモロコシ作付面積が増加したことで、同生産量は過去最高を更新し、大豆は作付面積の減少などから前年度をわずかに下回ると見込まれている。

表1 中国のトウモロコシ需給見通し（2024年12月10日中国農業農村部公表）

区分	一単位一	2022/23 年度	23/24年度	24/25年度		
			（推計値）	（11月予測）	（12月予測）	前年度比 （増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	43,070	44,219	44,886	44,886	1.5%
収穫面積	（千ヘクタール）	43,070	44,219	44,886	44,886	1.5%
単収	（キログラム/ヘクタール）	6,436	6,532	6,617	6,546	0.2%
生産量	（万トン）	27,720	28,884	29,701	29,384	1.7%
輸入量	（万トン）	1,871	2,341	1,300	1,300	▲44.5%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	29,591	31,225	31,001	30,684	▲1.7%
消費量	（万トン）	29,051	29,500	29,964	29,964	1.6%
食用向け	（万トン）	980	991	1,000	1,000	0.9%
飼料向け	（万トン）	18,800	19,100	19,350	19,350	1.3%
工業向け	（万トン）	8,100	8,238	8,450	8,450	2.6%
種子向け	（万トン）	191	193	196	196	1.6%
その他向け	（万トン）	980	978	968	968	▲1.0%
輸出量	（万トン）	1	1	1	1	－
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	29,052	29,501	29,965	29,965	1.6%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	539	1,724	1,036	719	▲58.3%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌9月。

表2 中国の大豆需給見通し（2024年12月10日中国農業農村部公表）

区分	一単位一	2022/23 年度	23/24年度	24/25年度		
			（推計値）	（11月予測）	（12月予測）	前年度比 （増減率）
作付面積	（千ヘクタール）	10,243	10,470	10,163	10,360	▲1.1%
収穫面積	（千ヘクタール）	10,243	10,470	10,163	10,360	▲1.1%
単収	（キログラム/ヘクタール）	1,980	1,991	2,021	1,993	0.1%
生産量	（万トン）	2,028	2,084	2,054	2,065	▲0.9%
輸入量	（万トン）	9,750	10,229	9,460	9,460	▲7.5%
総供給量（生産量＋輸入量）	（万トン）	11,778	12,313	11,514	11,525	▲6.4%
消費量	（万トン）	11,415	11,694	11,456	11,456	▲2.0%
搾油向け	（万トン）	9,593	9,750	9,490	9,490	▲2.7%
食用向け	（万トン）	1,432	1,535	1,560	1,560	1.6%
種子向け	（万トン）	90	89	88	88	▲1.1%
その他向け	（万トン）	300	320	318	318	▲0.6%
輸出量	（万トン）	9	9	18	18	100.0%
総消費量（消費量＋輸出量）	（万トン）	11,424	11,703	11,474	11,474	▲2.0%
差引数量（総供給量－総消費量）	（万トン）	354	610	40	51	▲91.6%

資料：中国農業農村部
注：年度は10月～翌9月。

（調査情報部 横田 徹）